

---

# はつこい

徒然花

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】  
はつこい

【Nコード】  
N6503Z

【作者名】  
徒然花

【あらすじ】  
なんの接点もない彼を好きになってしまった、片想いのお話。  
初めての想いだからどうすることもできなくて、見つめるだけで過ぎていく時間。  
モノローグ風です。

## （前書き）

初めて書いてみました。読んでいただけたら嬉しいです。

同じクラスでもなくて。

ただ、放課後の部活動の姿や、教室の窓から見る姿で、なんだかとても気になっていた。

はじめて彼を知ったのは、高校に馴染み始めた5月。部活動の時間だった。

拾い損ねたテニスボールを追って、私は体育館の入り口まで来ていた。

先輩、スマッシュ決める方向くらい考えてください…

なんて頭の中で文句を言い募りつつも、ダッシュで追いかける。

黄色いボールは、誰かの足に当たって止まった。

当たった本人がすつと屈んでボールを拾ってくれる。

ボールにばかり目が行っていた私は、ボールが拾い上げられていくのと同じスピードで視線を上げていく。

背の高い、男の子。

175？はあるかな。すらつとしている。

愛想のよさそうな感じではないけれど、整った顔立ち。

同級生…かなあ？

そんなことをぼんやりと考えていたら、彼は私とボールを見比べるようにしてから、

「はい。」

と手渡してくれた。思いがけず爽やかな笑顔付きで。

「ありがとうございます。」

私も笑顔でお礼を言って、ボールを受け取り踵を返した。

ボール拾いをしながら何気に観察してみると、どうやらバレー部の

1年生らしい。

私と同じクラスの男の子と一緒にいたから。

接点はただそれだけだった。

私は2組、彼は5組。教室もビミョーに間があいてる。

友達情報網を駆使してわかったことは、私の隣校区の中学出身で、校区は違うけれども私の家とは隣の町で、家も意外と近くてバス停も同じ。勉強もできるらしい。運動神経もいいらしい。ということだった。

彼を好きだという子も、何人が知った。

でも、やっぱりそれだけ。

何の接点もない私たちはそれ以上進展するはずもなく、廊下ですれ違う時になんとなくペコリと挨拶するくらいで。

ただただ何気なく時間は過ぎてゆき、それでも私たちはつながることなく、進路も全く違う学校へ。

いつしか彼の話も聞かなくなった。

偶然にも出会うことすらなかったから、心の奥底にしまいこんだ。

そんな彼に久しぶりに会ったのは、大学も卒業して社会人になりたての頃だった。

通勤のためにバスを待っていたら彼がやってきたのだ。

彼は自転車に乗っていた。

駅まで自転車で行くのか、はたまた会社まで行くのか、私にはわからない。

すれ違う刹那。目が合った。

私にははつきりと彼を認識できるけれど、彼にしたら私なんて「どこかで見たことのある子」か、下手したら「じろじろこつちを見る変な奴」くらいなんだろうな。

記憶に残っていたら、うれしいけれど。

目が合つて、なんとなく、どちらともなく軽くペコリと挨拶する。  
なんだか懐かしかった。

去っていく彼の後姿を見ながら、切ないけれど少し心が温かくなつた。

彼つて、やっぱり私の初恋の人なんだなあ、と。

他の人を好きになり、付き合つたりもしたけれど、やっぱり彼のことは忘れたことはなかった。

見つめるだけしかなかったからか、心の中できれいな思い出のま  
ま。

あれから何年経ったのかな。前よりもつとかつこよくなったね。

心の中で、そつと話しかけた。

それから何度もバス停で出会ったけれども、やっぱり私たちはその  
ままで。

軽い挨拶をして終わり。

それもいいか、と思えてる。

「初恋は実らない」って歌詞を、どこかできいたことあるよなあつて、ちよつと笑えた。

（後書き）

拙いお話ですが、読んでいただいて、ありがとうございました。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6503z/>

---

はつこい

2011年12月21日22時55分発行